

絶えて伝ふること無からむ。幸に召問を蒙りて、蓄憤を摠へべく欲す。故、旧説を録して、敢へて上聞す、と云爾り。

天地開闢

一いは聞けり。夫、開闢くる初に、伊奘諾・伊奘冉の二はしらの神、共為夫婦たまひて、大八洲国、及山川草木を生みます。次に、日の神・月の神を生みます。最後は、素戔鳴神を生みます。而して、素戔鳴神、常に哭泣ることを以て行と為。故、人民をして夭折しめ、青山を憂枯す。斯に因りて、父母の二はしらの神、勅曰したまはく、「汝、甚だ無道し。早に根国に退去りますべし」とのりたまふ。

天中の三神と氏祖系譜

又、天地割判くる初に、天の中に生れます神、名は天御中主神と曰す。次に、高皇産靈神。「古語に、多賀美武須比といふ。是、皇親神留伎命なり。」次に、神産靈神。「是、皇親神留弥命なり。此の神の子天児屋命は、中臣朝臣が祖なり。」其の高皇産靈神の生みませる女の名は、栲幡千千姫命と曰す。「天祖天津彦尊の母なり。」其の男の名は、天忍日命と曰す。「天伴宿禰が祖なり。」又、男の名は、天太玉命と曰す。

「斎部宿禰が祖なり。」太玉命の率たる神の名は、天日鷲命(阿波国の忌部等が祖なり)・手置帆負命(讃岐国の忌部が祖なり)・彦狭知命(紀伊国の忌部が祖なり)・櫛明玉命(出雲国の玉作が祖なり)・天目

一 平城帝に召し問われて、蓄積した憤慨を述べたい。↓解説三二頁

二 その意。「かくあれば」の古形。

三 朝廷に言上します。

四 シカイフ・イフニ

抄は載せる。いずれで

もよいが、謙譲のマラ

スで訓む。こで「序」

が終る。

五 発語。そそそそ。

六 ↓補注

七 夫婦の交わり。

八 日本国の美称。八

は多数の意の美称。

九 激しく立ちあわめく。

一〇 上二段面形あり。

二 不意に死なせて。

三 書紀古訓による。

三 道に背きひどい。

三 地底の国。古代の

他界観念の一つ。

四 ↓補注

五 ↓補注

六 ↓補注

七 ↓補注

八 ↓補注

九 ↓補注

一〇 ↓補注

一一 ↓補注

一二 ↓補注

一三 ↓補注

一四 ↓補注

一五 ↓補注

一六 ↓補注

一七 ↓補注

一八 ↓補注

一九 ↓補注

二〇 ↓補注

二一 ↓補注

二二 ↓補注

二三 ↓補注

二四 ↓補注

二五 ↓補注

二六 ↓補注

二七 ↓補注

二八 ↓補注

